

## \*\*\* 今日の健康 (5月) \*\*\* < 麻疹 (はしか) の流行について 2018年4月 >

現在、沖縄を中心に国内で麻疹の流行が見られています。

麻疹は、ワクチンと γ グロブリンによる予防以外には、治療薬もなく対策ができません。感染経路は、空気感染と言って麻疹の人と同じ空間に居たり、麻疹の人が出て行った直後にその空間に入ってきた場合は、その部屋の窓を開け放して2~3時間換気をしなければ、うつってしまう程の強い感染力を持っています。

麻疹は時に重症化して死亡する事もありますし、治った何年もあとから、脳炎が発症するという事もあり、かかって免疫をつけるのでなく、ワクチンで予防すべきで、WHOでも、15年くらい前から西太平洋地域麻疹排除行動計画というものを制定し、対策に力を入れています。しかし、現在でも西太平洋地域 (アジア諸国) は、麻疹の発生率が高く、日本にも近年その地域からの渡航者より持ち込まれる事がきっかけで、国内で一時的な流行を繰り返す現象がおきています。

日本では、現在30歳前後の方々の小児の時に、麻疹ワクチンを含む新型3種混合ワクチンで無菌性髄膜炎の副作用の確率がやや高かったということで、一時ワクチン接種が控えられてしまった為に、ワクチンを受けずに過ぎてしまった方々がおられます。また、28歳~44歳迄の方は、1回しか受けていない確率が高いです。

ワクチンを受けたかはっきりしない方や、ワクチンを接種していても、小児期に1回だけの接種しかしていない方では、十分な免疫が獲得されていない事がありますので、一度近医で抗体を血液検査で測ってもらい、その結果で、ワクチン接種の可否を決めると良いでしょう。ワクチンは、通常2回うたないと、十分な免疫が獲得できません。現在の小児では、1歳で1回目、小学校入学前の1年間で2回目の定期接種を行う制度となっています。

これからはじまるゴールデンウィークで、沖縄に限局している流行が全国に拡散する可能性があります。

この連休後数週間は、発熱、発疹などがあつた場合は、登校・登園や出勤は控えて頂き麻疹の診断となつた場合は、解熱後3日経ってからの出勤をおすすめします。一番感染力が強い時期は、発症前日から発疹出現4日目くらい迄の時期です。ですので、体調が悪い時は欠席や欠勤は早い段階で決めて下さい。



麻疹抗体を獲得していない人が麻疹患者さんと接した場合、72時間以内にワクチンをうてば、発症を防げる可能性があります。

前澤クリニック 内科・小児科 0422-30-2861  
天文台通り多摩信用金庫のななめ裏